

4-1-11 放射線診療部

1. 概要および特色

医療の安全やリスクマネジメントを重視する上では、fail-safe を保証するシステムが重要となる。また、縦割り組織の多い医療の中で、放射線科と病理は横断的な役割を担っている。

そのような観点から、当センターでは横断的に全ての画像診断を放射線科医が担当し、責任をもって読影報告書を作成し検査結果を各診療科へ返すシステムを構築した。この検査結果は、各診療科とのダブルチェックになることで客観的な安全性を高めることができる。

平成 15 年度は、スタッフ 9 名（放射線診断医 7 名、放射線治療医 2 名）、レジデント 2 名、診療放射線技師 13 名の体制で診療を行った。

4-1-11-1 放射線診断科と放射線治療科

1. 診療活動

1.1 放射線診断科（画像診断）

放射線診断科では、循環器科の心臓超音波検査と心臓カテーテル検査、産科の超音波検査を除く、すべての画像診断検査に関与し報告書の作成・発行を業務の中心としている。

診断医による当直体制も整えており、各診療科からは 24 時間いつでも専用 PHS 番号へ連絡するだけで緊急検査の依頼や相談ができるようになっている。

1.2 放射線治療科

当センターでは小児がんを専門に扱う小児放射線腫瘍医として、日本における小児がん放射線治療の主導的役割を担っている。旧国立小児病院時代からの「小児腫瘍医や小児外科医と密接な連携を保ちながらチーム医療として小児がんに立ち向かう」というスタイルで培われた豊富な経験が当センターにおいても継承されている。

腫瘍カンファレンス(Tumor Board)が隔週で開催され、病理医やコメディカルを含めた関連各科のスタッフが集合して治療方針、経過、手術結果（病理）の検討や報告が行われる。

また、全国の医療機関（小児科医、放射線治療医など）や患者様から治療相談やセカンドオピニオン受診が数多く寄せられた。平成 16 年度より当センターも「セカンドオピニオン外来」を設置する予定である。

1.3 院内カンファレンス

放射線診療部内にある画像カンファレンスルームでは、ほぼ毎日午後 5 時頃より各診療科との画像カンファレンスを行っている（表）。また、ICU と NICU へは毎日正午頃に画像診断医が出向いて画像カンファレンスを行っている。

院内カンファレンス

月曜	総合診療部カンファレンス
	胎児カンファレンス
火曜	外科カンファレンス
水曜	救急カンファレンス
木曜	神経カンファレンス
	呼吸器カンファレンス
	腫瘍カンファレンス(隔週)
金曜	循環器カンファレンス
毎日	ICU, NICU カンファレンス

1.3. 院外カンファレンス

月1回程度開催される院外でのカンファレンスに、放射線診療部から数多く参加している。

主な院外カンファレンス

小児放射線診断勉強会	首都圏の小児画像診断に携わる放射線科医による症例検討会。東邦大学大橋病院にて月1回開催。
小田急カンファレンス	主に神奈川県(小田急沿線)の大学病院等の放射線科医師による症例検討会。月1回開催。
こまばイメージング研究会	城南地区の中隔病院等の医師による画像診断症例検討会。年3-4回開催。

2. 研修関連

2.1 研修受入

院内・院外からの長期・短期の研修を随時受け入れ、小児画像診断についての研修教育活動にも積極的に取り組んでいる。平成15年度の研修受け入れは以下の通りである。

依頼施設	研修期間	人数
慶応義塾大学 放射線診断科	8ヶ月	1名
慶応義塾大学 小児科	1ヶ月	4名
日本医科大学 小児科	1ヶ月	2名
東京女子医大 小児科	12ヶ月	1名
東京女子医大 小児科	6ヶ月	1名
伊勢崎佐波医師会病院 小児科	5ヶ月	1名
自衛隊中央病院 小児科	12ヶ月	1名
国立成育医療センター レジデント	1ヶ月	4名
国立病院東京医療センター 研修医	1ヶ月	2名

2.2 学会研修への協力

2.2.1 日本小児放射線学会 教育セミナー

第1回小児放射線学会の教育セミナーが、2003(平成16)年2月14日に国立成育医療センター講堂においてを開催され、関東のみならず全国から小児画像診断に興味のある医師約150名が参加した。

3. 研究活動

3.1 平成15年度に助成を受けた研究課題

- 1) 放射線診療部プリパレーションツールの開発・評価 3 (分担研究者: 正木英一、平成15年度厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業)
- 2) 成育医療における放射線医療の標準化 (主任研究者: 正木英一、平成15年度成育医療研究委託事業)
- 3) 小児がん放射線治療データセンターの構築に関する研究 (分担研究者: 正木英一、平成15年度成育医療研究委託事業)
- 4) 小児におけるCT診断の適応と被曝低減に関する研究 (分担研究者: 宮崎治、平成15年度成育医療研究委託事業)

- 5) ティーチングファイルシステム構築に関する研究(分担研究者:岡田良行、平成15年度成育医療研究委託事業)
- 6) 小児放射線診療におけるネットワーク構築に関する研究(分担研究者:北村正幸、平成15年度成育医療研究委託事業)
- 7) 成育医療ネットワークにおける画像診断支援システムの活用に関する研究(主任研究者:野坂俊介、平成15年度成育医療共同研究)
- 8) ナショナルセンター放射線診療部の画像診断支援の役割に関する研究(分担研究者:野坂俊介、平成15年度成育医療共同研究)
- 9) 患者プライバシー保護に対するセキュリティ構築についての研究(分担研究者:岡田良行、平成15年度成育医療共同研究)
- 10) 「成育外科疾患におけるTele-radiology」に関する研究(分担研究者:北村正幸、平成15年度成育医療共同研究)
- 11) 小児救急医療における画像診断の標準化(分担研究者:野坂俊介、平成15年度成育医療研究委託事業)
- 12) 大型医療機器の共同利用率向上の研究(分担研究者:梶谷敏郎、平成15年度国立病院療養所共同基盤研究)
- 13) 政策医療推進3カ年計画に基づく政策医療分野別診療放射線技師養成マニュアルの作成 (part 2) 平成15年度国立病院療養所共同基盤研究)

3.2 研究員受入

共同研究関連の無給研究員を随時受け入れている。平成15年度の状況は以下の通りである。

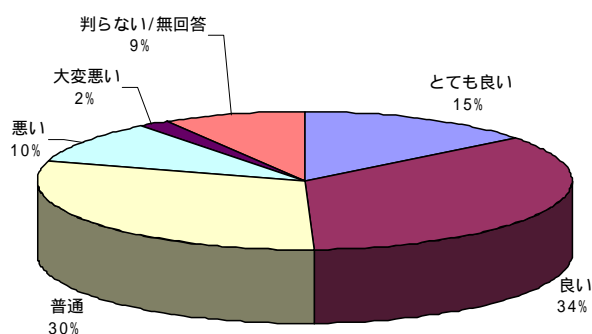
共同研究関連院外研究員	期間	人数
無給研究員(医師)	12ヶ月	1名
無給研究員(医師以外)	12ヶ月	9名

3.3 業務評価 (院内アンケート結果抜粋)

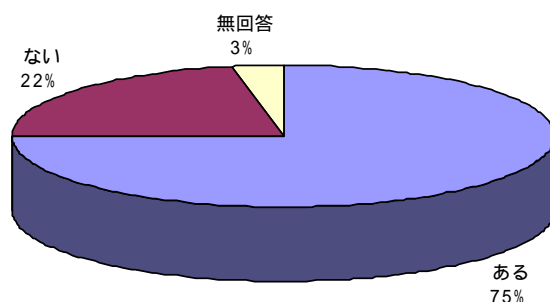
開院後2年を迎え昨年に引き続き、院内医師を対象に放射線診療部の業務評価を目的とした院内アンケートを実施した。抜粋を以下に掲載する。

実施:2004年3月、設問数:約50問、対象:医師209名 回答数:95名(45%)

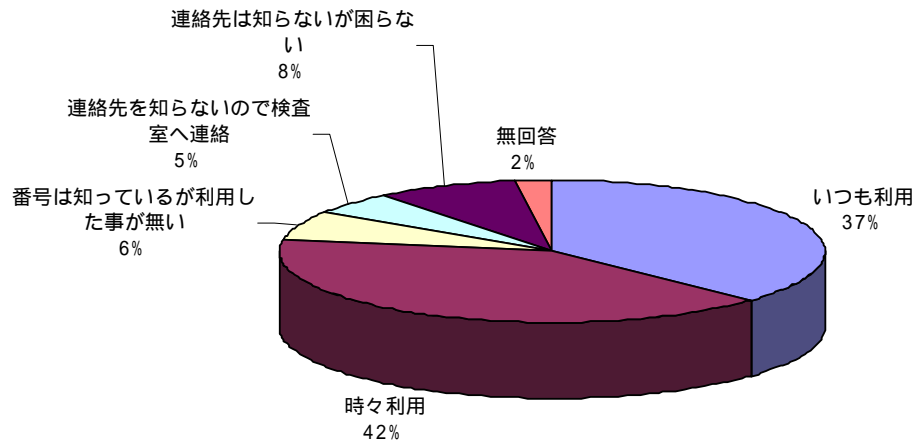
1) フィルムレスシステムは良いか?



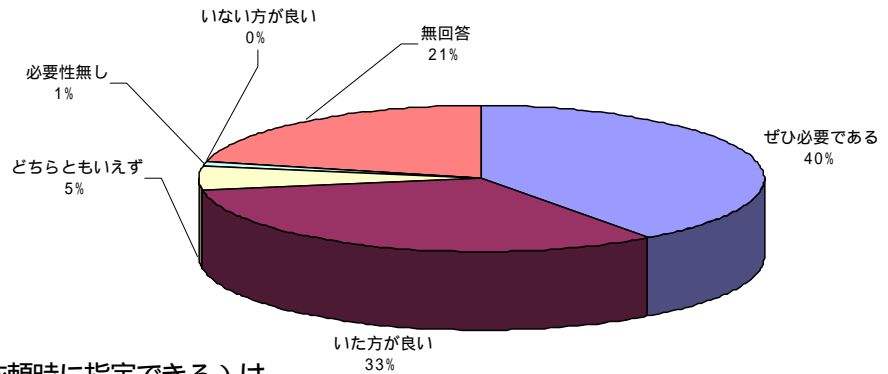
2) 検査選択について放射線科医師に相談されたことがありますか?



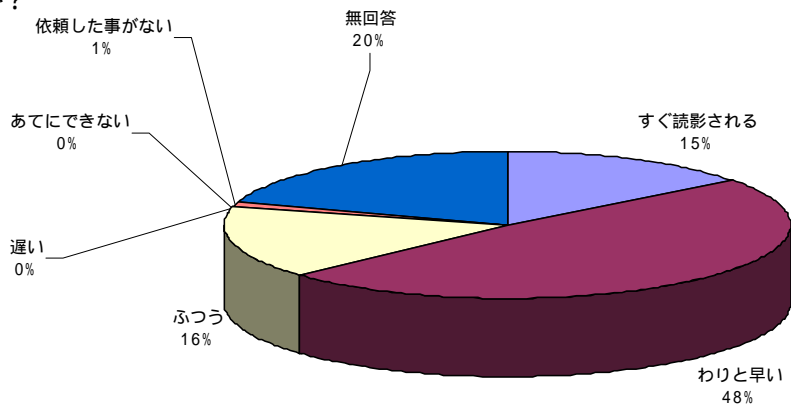
3) 至急検査放射線科医師 PHS を利用されていますか？



4) 診断医当直は必要ですか？



5) 「至急読影」(検査依頼時に指定できる)は機能していますか？



6) 単純撮影の読影は必要ですか？

